



公立芽室病院 第73号 だより

ホームページアドレス
http://memuro.com
又は芽室町ホームページのトップページから
アクセスできます。

新しいCTでの検査が始まりました

診療技術科放射線係

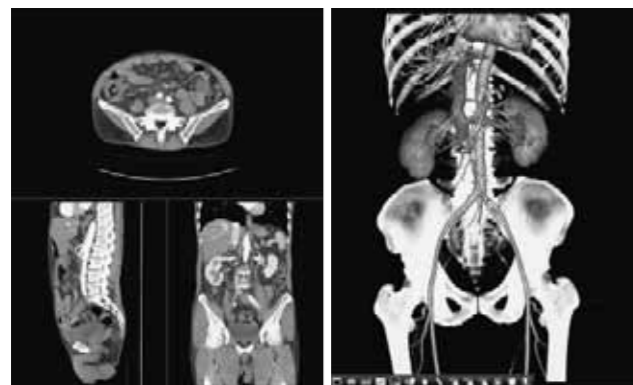
当院では、9月から最新鋭のCTが稼動しています。この装置は、64列の検出器により一回転で128スライスの断面が撮影できるマルチスライスCTです。

性能が飛躍的に向上した装置を導入したことにより、多くのメリットがあります。まず、患者さんの負担が軽減されたことです。今までの撮影時間に比べて4～5分の1に短縮され呼吸を止める時間が短く、楽に検査を受けていただけると同時に、動きに影響されないきれいな画像を広範囲に撮影し、つくる事が出来ます。また検査によって受ける放射線被曝の量も少なくなり、造影検査では、造影剤の量も減らすことが出来ます。

また、装置と一緒に導入されたワークステーションという、画像を処理するシステムを組み合わせることによって、今まで当院で行なえなかった心臓(冠動脈)の検査や、弱点であった血管系、大腸

など消化器系の検査も充実していくと考えています。またマルチスライスCTは細かいデータの収集が利点です。これを利用することでいろいろな方法により画像を作り出すことや解析ができます。今までは、横断面での診断が主でしたが、今後は目的とした臓器の周りの骨や皮膚などを外しての三次元表示や、体に対して縦方向や斜め方向など見たい断面からの画像を表示することが可能になり、今まで以上に体の奥深くで、どこが病気が分かがりやすくなります。また、今話題のメタボリックシンドロームに関係する内臓脂肪の解析や脳梗塞時の脳血流の解析も可能になりました。

また、画像診断をより精度の高いものにし、今以上に町民の皆様が安心して質の高い医療を受けていただくために、旭川医大の放射線科と連携して読影専門医による遠隔診断が行なえるよう検討しています。



多断面画像

3次元画像



CT撮影室



母乳育児シンポジウムが開催されました

8月1日～2日、札幌にて母乳育児シンポジウムが開催されました。毎年8月の世界母乳週間に、

研究や実践報告、ならびに母乳育児に関わる方々との交流会であるとともに、ユニセフより日本のBaby Friendly Hospital(赤ちゃんにやさしい病院)の認定がされる場でもあります。

2日間でのシンポジウムの参加人数は約950名で、母と子、医師・助産師・看護師などの医療関係者、母子保健に携わる方々が多く出席されていました。その中で、当院の母乳育児支援の取り組み(お母さん教室・病棟での取り組み・育児サークルなど)について発表をしました。

BFH(赤ちゃんにやさしい病院)認定式では、今年7施設が認定され、全国の認定施設は66施設となりました。現在では、BFHを返上した施設もあり、実際は61施設となっています。北海道では、旭川医科大学、北見赤十字病院、当院の3施設となっています。

人間の一生のはじまりである新生児期からの母乳栄養が、母と子にとって自然であり重要であることはよく知られていることです。栄養としての母乳の意義、健やかな母子関係の確立に及ぼす影響、育児における母乳の役割などについて、日本では広く認知され、いわば「常識」となっているといても過言ではないかもしれま

せん。今回のシンポジウムでは、すでに「常識」となっている母乳育児をもう一度整理、考え直してみようという方向づけのもと、特別講演が3題ありました。①日本小児科学会・横田俊平会長より「日本小児科学界から一母乳育児支援プロジェクトについて」、②海外からの講演者としてWHO(世界保健機構)のランダ氏より「世界の母乳育児、WHOの母乳育児の方針等について」、③旭川市旭山動物園の名誉園長 小菅正夫氏より「動物の視点からみた育児について」大変興味深い講演でした。

分娩施設の集約化などに伴って、赤ちゃんを産み育てることが全国的に困難になってきていると感じます。私たちは、地域の中でのBFHとして、赤ちゃんを産み育てることが、幸せであるようにお手伝いしていくことの大切さを実感し、これからも頑張っていきたいと思っています。



販わうポスター展示会場

心がけましょう「咳エチケット」

- 咳・くしゃみが出たら、他の人にうつさないためにマスクを着用しましょう。マスクをもっていない場合は、ティッシュなどで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけて1m以上離れましょう。
- 鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにゴミ箱に捨てましょう。その後、手洗いをしましょう。
- 咳をしている人にマスクの着用をお願いしましょう。

※咳エチケット用のマスクは、薬局やコンビニエンスストア等で市販されている不織布(ふしょくふ)製マスクの使用が推奨されます。

※一方、マスクを着用しているからといって、ウイルスの吸入を完全に予防できるわけではありません。

※マスクの装着は説明書をよく読んで、正しく着用しましょう。